

- (1) グループ名
NPO法人ミニシティ・プラス
- (2) 提案名 MMジュニア編集局
- (3) 助成を受けて行った活動の時期及び内容

【時期】

★募集

6月～チラシ、ウェブサイト等により、ジュニア記者募集開始。

★説明会開催

7月27日（金）10時～12時 市民活動支援センター

7月28日（土）10時～12時 みなとみらい本町小学校

★記者決定

記者（小学4年3名、小学5年3名、小学6年4名、中学2年1名、高校1年1名）

★編集会議 場所：みなとみらい本町小学校

8月25日（土）13時～15時 参加12名

9月22日（土）10時～12時 参加7名

10月13日（土）10時～12時 参加7名

11月24日（土）10時～12時 参加7名

12月15日（土）10時～12時 参加8名

2月9日（土）10時～12時 参加8名



★取材（新聞記事参照）

8月25日（土）9時半～12時 横浜みなと博物館 11名

9月19日（水）16時半～18時半 三菱地所 9名

10月3日（水）16時半～18時半 横浜銀行 10名

10月17日（水）16時半～18時半 熱供給株式会社 10名

11月24日（土）13時～15時 横浜美術館 7名

12月1日（土）11時～12時 縁市 2名

1月15日（火）17時～18時半 FM横浜 11名

1月19日（土）10時～11時半 富士通エフサス 9名

1月19日（土）12時～13時半 カフェあにみ 9名

1月19日（土）14時～16時半 豊かな体験を通した学びフォーラム 5名

★その他の活動

12月2日（日）つづきジュニア編集局との交流会

つづきジュニア記者とMMジュニア記者のトークバトルやチームワークを競うワークショップなどを行った。トークバトルのようすはつづきジュニアタイムズに掲載されている。



「こどもメディアシンポジウム概要」
 日時：2018年2月17日（日）13時～16時
 会場：クイーンズスクエアB棟9Fみなとみらい
 Innovation & Future Center
 （富士通エフサス）
 全体参加者 70名
 MMジュニア記者 9名参加

—こどもメディアシンポジウム内容—

1. キーノート「こどもとメディアについて」東京都市大学メディア情報学部

中村雅子教授&中村研究室学生「こどもメディアのあるまちは」

<https://youtu.be/u-CKTBr9-48>

2. つづきジュニア編集局10年間の取り組み報告&MMジュニア編集局からの報告

<https://youtu.be/kvEMnJz-uAE>

3. 石巻日々子ども新聞（石巻）からの報告

4. じもたんキッズ（川崎）からの報告

<https://youtu.be/FfQIKjC4a8k>

休憩のあと質問コーナー

<https://youtu.be/Eyd8IPg4XK0>

5. 各メディアのゲスト及びこども記者との開場のクロストーク

<https://youtu.be/n64dXYipN9M>

※各メディアの実績パネルを会場展示



（4）エリアマネジメントにおける効果

みなとみらい21エリアの魅力発信のスタート切ることができた。ウェブサイトができ、新聞を発行するまでは取材先にもイメージがうまく伝わらないこともあったが、今後は取材や協力を得やすくなる。今回新聞は、みなとみらい本町小学校全児童配布、タワーマンション（ミッドスクエア、フォレシス、ブリリア、ブランズ、ブルーハーバー全戸配布、タワーズ掲示）にも配布。また市民活動支援センターやにしとも広場等の公共施設や、取材先である、横浜みなと博物館、横浜美術館など、一般の方が手に取る場所にも配架していただいた。地域に住む、こどもたちや保護者の方たちの地域への愛着の高まり、地域住民への情報提供に寄与できた。

（5）今後の活動展望

「次年度も記者を続けていきたい、友人を誘いたい」というこどもたちの強い要望もあり、みなとみらい本町小学校の協力も引き続きえられることから、今年度も活動を続けていく。5月から募集開始し、今年度は夏休みを中心に取材を強化していくことで、平日の取材を増やし、みなとみらい21エリアの会社にも多くアプローチしていきたい。配架できる場所も増やしていきたい。

収 支 決 算 書

グループ名 NPO法人ミニシティ・プラス

1 収入

項 目	金 額	説明 (負担者及び負担方法等)
交付された助成金 (A)	500,000	
寄付金、団体負担金	126,477	
合 計	626,477	

2 支出 (助成金対象経費分)

項 目	数量 (単位)	単 価	金 額	説 明
①紙面デザイン費	4P	27,000	108,000	1P25000円×4Pと消費税
②紙面印刷費	1式		57,855	今回8000部とした。
③ウェブサイトデザイン制作委託費	1式		100,432	10万+振込手数料
④参加者保険料	11人	350	3,850	
⑤消耗品費	一式		17,040	取材時経費、新聞発送費等
⑥シンポジウム、講習会外部講師謝金	一式		20,000	別紙参照
⑦メンバースタッフ交通費	一式		32,920	別紙参照
⑧外部講師および報告者交通費	一式		96,640	別紙参照
⑨広報チラシ印刷代	2種		14,740	募集チラシ、シンポチラシ
⑩会場費	7回	5,000	35,000	スタッフミーティング
⑪スタッフ人件費	一式		140,000	別紙参照
合 計 (B)			626,477	

3 決算後の助成金の額

【みなとコース】

(1) (A) ≤ (B) の場合 (A) の額 ¥ .-

(2) (A) > (B) の場合 (B) の額 ¥ .-

【みらいコース】

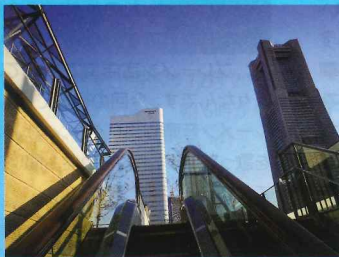
(1) (A) ≤ (B) × 4/5 の場合 (A) の額 ¥500,000. -

(2) (A) > (B) × 4/5 の場合 (B) × 4/5 の額 ¥ -

みなとみらい 21 エリアは、横浜市の六大事業として整備されてきた、横浜市の中でも新しいまちです。商業施設やオフィスなどを中心に、計画都市として成熟する中、ここに暮らす人も増え、2018年4月みなとみらい本町小学校が開校しました。MMジュニア編集部は、みなとみらい本町小学校に編集部を置かせていただいています。このまちの多様な魅力を小学生から高校生までのジュニア記者が、こども目線で伝えます。MMジュニア記者の活躍にご期待ください。

ジュニア記者が選ぶ、お気に入りの風景

MMジュニア記者に、すきなまちの写真を撮ってもらいました



▲空に続くエスカレーター

私のお気に入り、マークイズみなとみらいの外側にあるエスカレーターです。まるで空に向かって登っていくジェットコースターに乗っているような感覚になりとても気持ち良いです。晴れた日は青空とランドマークが見えて特にオススメ。



こはる



▲山下公園からの風景

戦後から変わらず横浜を見守ってきた、ホテルニューグランドは、とっても趣があり歴史が感じられます。異国情緒あるカフェでゆっくりできたら素敵だなあと思いながら写真を撮りました。



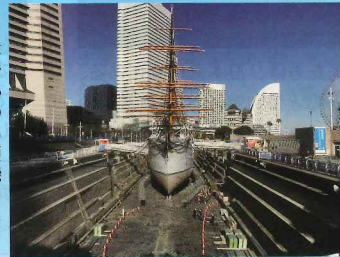
橋本みなみ

▶みなとみらいの日本丸

船齢88年を越えた日本丸が大規模修繕中です。補修と塗装のため20年ぶりにドック内の海水を全て排水しています。注水は3月中頃の予定です。貴重な機会なので是非見に行ってみてください。



出口 遼馬



▲みはらし公園から宮ヶ谷を望む

西区浅間台にある、みはらし公園から小さい頃に住んでいた宮ヶ谷を見下ろした風景です。宮ヶ谷という地名は、浅間神社の傍にある谷という意味に由来します。麓には宮谷小学校。奥には浅間下から三ツ沢に続く曲がりくねった坂道が見えます。



山本 太郎

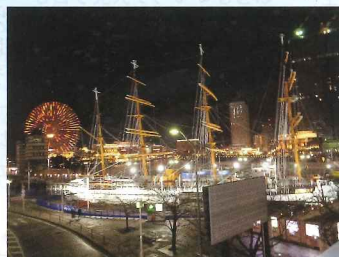


▲横浜美術館のライトアップ

みなとみらいの中で好きな所は、「横浜美術館の前のライトアップ」です。冬限定で写真を撮るのに良いスポットでもあり、周りに光が反射して、きれいな景色を見られます。



AI



▶輝く日本丸

みなとみらいの夜景です。とてもコスモワールドの観覧車がアクセントになっています。日本丸がとてもきれいに光っています。



矢吹さん



◀モクモク ワクワク ヨコハマヨヨー

このシンボル何だろう?と 思っている人も多いのでは? このシンボルはたなびく雲をイメージしてつくられたそうです。このシンボルがいつもみなとみらいを見守っていて、みなとみらいの象徴だと思ったのでこれを紹介したいと思いました。



ブルー

▶MM線「元町中華街」の駅舎の屋上に広がる「アメリカ山公園」

建物の屋上が公園になっていて、初めて来た時はびっくりしました。なのでこの公園は、山手の丘に向かう人たちの動線になっています。私は、ここで父と一緒にウチキパンのカレードーナツを食べるのが好きです。



みーこ



◀「みんなの庭」から見えるランドマークタワー

「たくさんの人に自然とのつながりを体感いただきたい」というコンセプトで作られたマークイズみなとみらいの屋上にある「みんなの庭」から見えるランドマークタワーの景色です。ここから見えるランドマークタワーと、ライトアップされた美術館前の夜景がきれいで、みなとみらいの自慢の景色だと思おうので紹介します。写真を撮った時は、庭の木々には大きなミカンがたくさんなっていて、甘酸っぱい香りがこの庭中に立ち込めていました。このミカンのオレンジ色と鮮やかにライトアップされたランドマークタワーの夜景のコラボが素晴らしい、この写真を撮りました。



丹治 陽貴

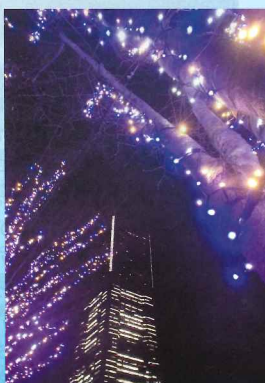


▲横浜の観光名所を走る「あかいつ」号

JICAという建物の前を歩いていた時にたまたま走っていたので撮影しました。赤とベージュの色が鮮やかで窓ガラスがレトロで可愛いです。このバスに乗ると桜木町から大根橋まで、キング、クイーン、ジャックの塔や、横浜中華街、港の見える丘公園、マリントワーなど、たくさん名所を見ることが出来ます。たくさんの方にこのバスに乗って横浜を回ってほしいです。



H.あんみつ



▶ランドマークを見上げてみたら

これは、美術館の前から撮った写真です。美術館の前は夜になると、ライトアップされ、幻想的になります。そんな木と一緒に写っているのは、ランドマークです。正面から見るといいですが、この角度からの景色は格別です。



角さん



▶窓からのみなとみらい

部屋のシャッターを開けると、ランドマークと観覧車が見えました。明かりがきれいだったので近所の公園まで行って写真を撮りました。



コバツレン

「横浜みなと博物館」にたくさんの人に来て欲しい!

記事:角田 和瑛



ぼくたちは、日本丸の横にある、横浜みなと博物館にいき、学芸員の奥津さんに案内してもらいました。普段見ることのできない裏側に入ると、巨大な書庫があり、そこには約2万5千冊の本がありました。それらの本はみなと博物館に勤務している学芸員の人々が、読み、新たな資料を見つけ、展示するためにあります。学芸員の人は今ある2万5千冊の本をほぼ読んでおり、その内容が頭に入っているといえます。ぼくも本が好きで200冊以上は読んでいたのですが、どんな内容だったか忘れてしまっこともあります。学芸員の人はずこいと思いました。

その他、おどろいたことは、掃除をする人のことです。とても広い博物館なのに2人で掃除してしまうというのです。今回の取材で博物館の裏側など、貴重な場所をみせてもらい、とても楽しかったです。この貴重な体験を広め、横浜みなと博物館のよさをたくさんの人に伝え、たくさんの人に来てもらいたいと思いました。

(2018.8.25)

みんなのシンボルランドマークタワー

記事:山本 未来

ランドマークタワーは、72階まであって、オフィスやショッピングモール、展望台、ホテルなどがあります。このビル内のオフィスでは、約1万人も働いている人がいると聞いて、とてもびっくりしました。今回一番気になったのが、安全についてです。地震や火事、事故、台風などの対策はどうやっているのかな、とてもたくさんの方が訪れるビルでは、どんな工夫を守っているのかなと思えました。まず、防災センターではモニターで、事故などが起きていないか交代で確認しています。さまざまなところに防犯カメラが置いてありました。



その防犯カメラの映像をたくさんモニターでいつも見ているそうです。そして、夜になると全部の扉に鍵をかけてパッシブセンサーというもので、動きを感じたら、人が入ったということで反応があり、すぐにつけられるようになっています。火事の際には、火災探知機が3つのレベルで知らせてくれます。もし、火事が広がってしまったら、シャッターを閉じて防ぎます。

さらに、ランドマークタワーは、強風で揺れてしまう、ということを知りました。そのため、ランドマークタワーの屋上70階には大きな振り子が対角線にそって2つあります。その重さは1つ170tもあるそうです。ランドマークタワーが揺れると、反対方向に振り子を揺らし、バランスをとるのです。(2018.9.19)

熱供給のひみつ

記事:出口 遼馬



みなとみらい熱供給とは、みなとみらいの地域ほとんどの建物に冷暖房に使う蒸気と冷水を送っている会社です。地域導管という管がみなとみらいの地下を通っていて、その管を使って社内で作った蒸気と冷水をみなとみらいの建物に届けています。

熱供給では、ガスや電気を使ったさまざまな方法で、蒸気と冷水が作られています。冷房では、普通の水なら凍ってしまう温度でも、凍らない特別な液体を使って、水を冷す方法。暖房では、ボイラーという、大きなやかんのような機械でガスを燃やし、400度近くの熱い蒸気を作る方法があります。建物で使い終わり、水に戻ってしまった蒸気と、ぬるくなった冷水を回収しボイラーや冷凍機で蒸気、冷水に戻します。冷暖房がこんな風に作られていることを知っていましたか?冷房・暖房を使うとき、少し熱供給の事を思い出してみてください。(2018.10.17)

横浜銀行のすすめ

記事:橋本 みなみ

2020年で創業100年を迎えるという、横浜銀行の本店に行きました。横浜銀行は大きな統合がないまま、ここまで成長してきたそうです。銀行に



は主に3つの仕事があります。お金を預かる、貸し出す、の2つは知っていましたが、3つめのお金を送るという仕事は知りませんでした。このお仕事のおかげで私たち利用者はATMで遠い人にお金を渡すことができますし、また大金を手渡しで渡す必要がなくなりました。お給料はこのATMをつかって、大方渡されるので、不可欠で社会のしくみを担う大切な仕事だと思いました。

ところで、銀行のトップの役割の方々を「頭取」と呼ぶ理由は知っていますか?頭取と呼ばれるようになったのは、2つの説があります。雅楽の演奏における、首席演奏者を称する「音頭取り」に由来する説と、「筆頭取締役」の略称に由来する説です。銀行はお金が生まれてからずっと不可欠で、名称は違えども存在してきました。

本店の前には、ひときわ目を引く高田洋一さんの「水面の鳥」という赤い作品があります。なんとこの彫刻、風を受けるとゆっくり回転するしくみです。ぜひ一度これを見に行き、歴史ある横浜銀行の本店に足を踏み入れてみましょう。ビル内にある大きな水時計は美しく、つい長い間見てしまいます。私のオススメです。

(2018.10.3)

ゆかいな縁市

記事:中沢 璃帆



グランモール公園で行われた「みなとみらい縁市」に行ってきました。「陶磁器工房器楽」では、電動ろくろ体験コーナーがあり、ジュニア記者の1人が代表で体験しました。お店の方がやっているのを見るとかんたんそうに見えましたが、ジュニア記者にはとても難しそうでした。売っている物も作るのがとても難しそうでした。猫や人形のかわいいはしおきがあり、猫のうらにはそれぞれの名前がついていて「トトロ」の様な色をした子

の名前は「トトロ」ミケネコは「ミケ」というかわいい名前がついていました。

キッチンカーで参加している「からあげ専門店すごいっ手羽」は夫婦でお店を営んでいました。からあげのころもは、カリッとしていて、中はとてもジューシーで言葉で全てを表わせない程おいしいと言うより、完璧なからあげでした。

最後に取材したのがバンザイ LIFE というバンドです。なんとメンバーは、プレーメン商店街で働いている人々なんです。今回の縁市では、「プレーメン音頭」、「パターン」などの曲を歌っていました。どの曲も聞いてとても楽しいです。

今回、私は縁市に行き、みなとみらいのことをより知ることができてうれしかったです。(2018.12.1)

街のシンボル「横浜美術館」

記事:村田 ころこ



横浜美術館に取材にいき、普段はみることのできない特別な部屋を見せてもらいました。

一つ目は、中央監視室です。ここでは24時間365日、館内の警備や、温度や湿度の管理をしているそうです。美術品に「最適な温度は22度くらい、湿度は55%くらいだと教えてもらいました。もし停電になっても10時間くらいまでは自家発電ができるそうです。横浜美術館では、いまままでに一度も作品を盗まれたことがありません。それはきちんと管理されているからだと思います。

二つ目は美術品の搬入口です。美術品を積んだトラックから、展示室や保管庫へ、安全でスムーズな移動ができるしかけがたくさんありました。たとえば、トラックの荷台の高さまで大きなリフトが移動し、美術品をスムーズに乗せることができる、などです。そのほかにも美術に関する11万3千冊の蔵書がある図書館や、一般の人が美術を学ぶためのアトリエを見学しました。

今回、本当は入ることができない場所をたくさんみせてもらって、とてもうれしかったです。とくにこの美術館がみなとみらいで一番古い建物だということにびっくりしました。

(2018.11.24)



FMヨコハマでの貴重な体験

記事:山口 あい



FMヨコハマは、1985年12月20日に誕生したラジオ局で、朝6時から夜の11時まで、みなとみらいのランドマークタワーの中にあるスタジオから、生放送をしています。その生放送をしているスタジオを取材する貴重な体験をすることができました。FMヨコハマは、藤野市の大山というところにアンテナを置き、電波をとばして、横浜だけでなく、神奈川エリアを中心に、栃木県や埼玉県までも届いています。

今回私たちは、15時から19時まで、生放送中の「Tresen」を見学させていただきました。DJの植松さんとさんまさんのお嬢様のIMALUさんが生放送しているところ、ニュースキャスターがニュースを伝えているところを見ることができました。植松さんとIMALUさんとお話をすくなくめらかにしていたので、感心しました。また、毎朝ラジオで聞いているニュースをニュースキャスターが話しているのを間近で見ると、耳に聞こえてくるだけでなくスタジオで原稿を読んでいるキャスターも目で見えて、いつもとは違った聞こえ方でした。

他にも、6万枚もあるCDライブラリーや、録音するちいさめのスタジオや、番組を編集をするスタジオも見ることができ、実際にスタジオの中にはいり、ヘッドフォンをつけて、写真も撮ると、貴重な体験もできました。本当のスタジオで取材をすることができ、これからはもっと楽しく聞くことが出来るそうです。(2019.1.15)

すごい！神奈川のFMヨコハマ

記事:小林 廉

FMヨコハマは、1985年、12月に生まれたラジオ局です。基本的に、



朝～夜の24時間、日曜日の夜中を除いて、ずっと放送しています。FMヨコハマは、「大山送信所」からラジオの電波をとばしています。総務省から放送免許をもらって、神奈川県を中心にラジオ放送をとどけています。放送は、神奈川県だけでなく、関東全域までギリギリとどけています。

ぼくは、最近ラジオをきいています。今回取材して、ラジオをもっと聞きたくなりました。(2019.1.15)

富士通エフサスのよいところ

記事:長谷川 綾

富士通エフサスは、サービスや技術を提供する会社です。ICT(IIはインフォメーション(情報)Cはコミュニケーション(通信)、Tはテクノロジー(技術)という意味)をつかって、将来どんなものが必要なかを考える会社です。

富士通エフサスではお客様がどのようなことを考えているかの真実を引き出したり、それに気がついて伝えたりするお仕事もしています。

そのような仕事をすると、多様性を大切にしながらコミュニケーションをたくさんしたり、ワークショップでレゴなどをつかって、頭の中をやわらかくしたり、整理したりするときもあるそうです。

昔は馬車道で、『教育』をメインの仕事をしていました。今はここ、みなとみらいのクイーンズスクエアに移転しましたが、それは貿易港、みなとみらいという雰囲気、富士通エフサスがやろうとしていることが、合っていたからです。会社らしく見えない、家の居間のような雰囲気を作ったのは、本音が自由に言うようにしたいと思ったからです。この場所は、窓からよく花火が見えたり、太陽がさんさんと入ってきたりして、いい場所です。



富士通エフサスのこだわりは、自分の会社がもうかる、というだけでなく、みんなも自分も得するように、ウィンウィンになるようにサービスを提供して、お客さんが得することを考えていることです。人が好きな人が大前提で、そういう人に向いている会社だということでした。(2019.1.19)

Cafeあにみに行きました！

記事:丹治 陽貴



ぼくは、アニメはすごいところだと思います。なぜならアニメは、障がいのある人がつくったパンやアクセサリなどを販売して、障がいのある人をサポートしているからです。カフェ内に、横浜市の前副市長の書いた絵がかざってあったことにびっくりしました。その絵は夕焼けのみなとみらいの景色を描いたもので素敵だと思いました。前副市長がアニメのやっていることを応援しているということなんだな、と思います。

ぼくたちはお昼にいったので、みんなでランチを楽しみました。ここで出しているカレーと、障がいのあるひとが作ったパンがおいしいので、ぜひ行ってみてください。特にぼくは特製アニメカレーがクセになる美味しさです。(2019.1.19)

あにみはすごいカフェ

記事:矢吹 昊大



ランドマークタワーのすぐ近くにある、クロスパティオの中にある、アニメというカフェに取材に行きました。代表をしている、服部たろさんという、車椅子の方が取材に答えてくれました。この施設では、障がいのある人たちの作品を展示して販売したり、作品をつくる作業などもして、カフェの運営もしています。障がいがあってもとても元気で僕はすごいと思いました。アニメのカレーはすごくおいしかったです。僕はとても尊敬したいと思いました。(2019.1.19)

豊かな体験を通した学びフォーラム

記事:山本 承太郎

皆さんにとって豊かな体験とはどのようなものでしょうか。楽しかった体験や悔しかった体験、何か新しいことに挑戦した体験、など体験と言っても人それぞれです。けれども、それらの体験を経験した後、僕たちは必ず成長していると思います。これからの未来、僕たちはどんな豊かな体験をして行けばよいのか、そんなことを考えた取材でした。

富士通エフサスのオフィスでは、さまざまなイベントが開かれています。今回取材したのもその1つで「豊かな体験を通した学びフォーラム」という学校の先生主催のイベントでした。子どもに豊かな体験してもらうために、まずは周りの大人が豊かな体験をしてさまざまなことを感じよう、というのがイベントの目的でした。この日は多くの先生方だけでなく、たくさんの企業の方々も参加していましたが、僕たちジュニア記者に気軽に声をかけてくださり、楽しく参加することができました。

最初に心をほぐすアクティビティをしました。4つのグループに分かれ、「私、あなた」と言いながらグループの誰かを指してどんどんつなげるゲームや、ストーリーになっている絵を一人一人が持ち、英語だけで順番に並べるゲームなどをしました。大人たちが小学生のような遊びを真面目にやっている姿を初めて見て、少し驚きましたが、ゲームが終わったときには自然と参加者の距離がちんできていました。



太陽住建という会社の河原社長から「学校教育と企業の関わり」についてのお話が終わった後、全体でワークショップをしました。6人ほどのグループを作り、1つセッションが終わるごとに全員が他のグループに旅立つというワールドカフェ形式でした。さまざまな立場の人たちが自分、または他人の豊かな体験について考え、それを国連で決められたSDGs(持続可能な開発目標)にてらし合わせました。こんな見方もあるのか、そんなとらえ方もあるのか、と驚きの連続でした。(2019.1.19)

いくつ正解できるかな？ MM ジュニア



大人も子どもも挑戦してみよう クイズコーナー



クイズの答えはこちら→
<http://mmjr.minicity-plus.jp/2019/02/10/690/>

中面の記事にヒントがあるクイズには★をつけました

Q1 帆船日本丸と同じ、日本丸メモリアルパーク内にある博物館は？

- ★ 1. 安藤百福博物館 2. 横浜みなと博物館
3. 日本新聞博物館

Q2 次のうち、みなとみらいエリアでいちばん古い建物はどれ？

- ★ 1. 横浜銀行本店 2. ランドマークタワー
3. 横浜美術館

Q3 横浜市西区に2018年新しく生まれた小学校はなんというでしょう？

- ★ 1. みなとみらい小学校 2. みなとみらい本町小学校
3. 新高島小学校

Q4 横浜銀行本店にある大きな時計はどんな時計でしょう？

- ★ 1. オルゴールのからくり時計 2. 大きなハト時計
3. 大きな水時計

Q5 マリントワーの高さは何メートル？

1. 106メートル 2. 110メートル 3. 120メートル

Q6 横浜ランドマークタワーは何階建てでしょう？

- ★ 1. 63階 2. 70階 3. 72階

Q7 西区と中区には同じ町名があります。いくつあるでしょう？

1. 1つ 2. 2つ 3. 3つ

Q8 西区が、横浜市の中で1位なのはどれでしょう？

1. 住んでいる人の多さ 2. 働いている人の多さ
3. 面積の広さ

Q9 みなとみらい線の西区にある駅はいくつあるでしょう？

1. 2つ 2. 3つ 3. 4つ

Q10 西区は生まれて何年目？

1. 70年 2. 72年 3. 74年

ジュニア編集局 サポーター募集

子どもたちと一緒にSDGs、持続可能なまちづくりに取り組みませんか？
この活動は、SDGs 11「住み続けられるまちづくりを」に取り組む活動です。



取材の様子

子どもたちの活動を応援してください！



富士通エフサス



F Mヨコハマ



横浜みなと博物館



横浜美術館

編集後記

みなとみらい
本町小学校での
編集会議の様子



みなとみらいエリアの魅力を子どもたちに取材してもらい、発信していく活動を、月1回の編集会議(主に土日の午前中)で楽しく行っています。まちを取材し、まちを愛することもたちが増えることは、持続可能なまちづくりにつながります。ぜひこの活動を応援してください。

NPO法人ミニシティ・プラス スタッフ一同

- 1口3000円(1年間) から活動を支えてくれる、個人サポーターを募集します。
 - ・サポーターの方には、年4回程度メルマガで活動をお知らせします。
 - ・年1回発行の新聞をお送りします。
 - ・サポーターの方は、希望すれば編集会議や取材を見学できます。(人数に制限があるので、事前にご相談となります)

- 1口12000円(1年間/月1000円) から、活動を支えてくれる 企業・団体サポーターを募集します。
 - ・当HP(つづき・MMジュニア編集局)のページに社名やロゴなどを掲載させていただきます。
 - ・サポーターの方には、年4回程度メルマガで活動をお知らせします。
 - ・年1回発行の新聞を希望部数(ご相談の上)お送りします。
 - ・取材のご希望があるときには、ご対応検討します。
 - ・サポーターの方は、希望すれば編集会議や取材を見学できます。(人数に制限があるので、事前にご相談となります)

- お問い合わせください
045-306-9004(担当:岩室晶子) minicityplus@gmail.com

創刊号 2019年(平成31年)2月発行

編集 MMジュニア編集局

発行 NPO法人ミニシティ・プラス

<http://mmjr.minicity-plus.jp/>
(e-mail minicityplus@gmail.com)

協力 みなとみらい本町小学校

MMジュニアタイムズは、みなとみらい21エリアマネジメント
活動助成事業を受けています





ジュニア記者 1期生募集!



MM ジュニア記者は、みなとみらいエリアを中心とした地域の取材活動し、記事に完成するまでを担当する、地域新聞の記者です。MM ジュニア記者になって、活躍してみませんか?

参加無料

みなとみらいジュニア記者になれる人は・・・

- ・2018年4月時点で小学4年～高校生の方。中学生、高校生大歓迎です。
- ・2018年7月から2019年2月頃まで、年間を通しての編集会議や取材に積極的に参加できる方。
- ・みなとみらいに通える人なら、住んでいなくてもOKですが、取材や会議はみなとみらいや桜木町が中心となります。
- ・参加費はかかりませんが、現地までの交通費等は各自負担になります。

最初に、記者の勉強をしたり、取材の練習したりするので、文章を書くのが得意でなくても、お話が上手でなくても、みなとみらいについてもっと知りたい!という気持ちがあれば、誰でもできます。

活動はご本人のみとなります。基本的に保護者は同行できませんが、ご心配があればご相談ください。

日時予定	おおよそのスケジュール
6月	ジュニア記者募集開始(7月末迄)
7月	説明会開催 7/27(金) 10時~12時 横浜市市民活動支援センター(桜木町) (中区桜木町1-1-56 クリーンセンタービル4F・5F)
8月	MM ジュニア編集局キックオフ 記者研修~プレ取材
9月	定例編集会議月1回 取材活動1
10月	取材活動2
11月	定例編集会議月1回 取材活動3
12月	定例編集会議月1回 取材活動4
1月	編集作業
2月	新聞発行& こどもメディアシンポジウム

★みなとみらいジュニア記者になりたい人は、申し込み用紙裏面にあります!

お名前(よみがな)、年齢、住所、電話番号、メールアドレス(保護者の代行でもかまいません)、応募動機を書いて、メールまたはFAXでお申し込みください。(申し込みフォーム: goo.gl/rC7SeN)
募集締め切り 7月31日まで。

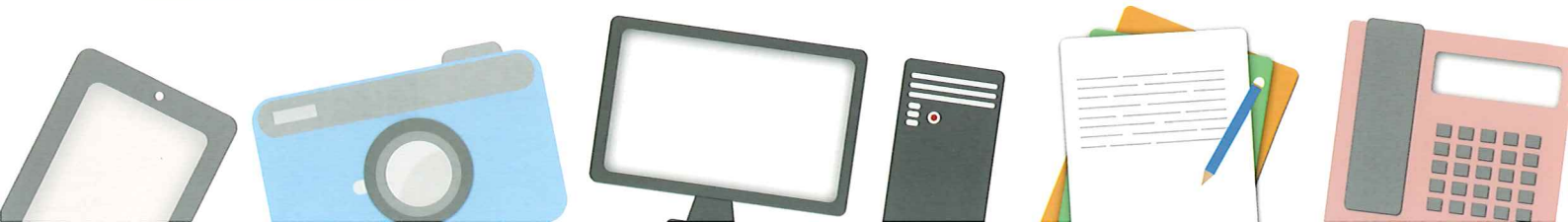
定員約10名です。応募多数の場合、選考させていただく場合があります。

その際、みなとみらいエリアで活動しやすい方(住所が近い、学校が近い等)を優先させていただく場合があります。



お問い合わせ先 NPO 法人ミニシティ・プラス <http://minicity-plus.jp/mm-junior-1/>
minicityplus@gmail.com 045-306-9004 Tel&Fax(10時~18時。水曜休み)

*NPO 法人ミニシティ・プラスは、都筑区で10年間「つづきジュニア編集局」の活動をしてきました。今回、「みなとみらい21 エリアマネジメント活動助成事業」の採択を受けて、みなとみらいエリアにおいて、MM ジュニア編集局を立ち上げることになりました。新しくスタートしたばかりです。



こどもメディアシンポジウム in yokohama

2019年2月17日(日)
13時~16時

石巻から
こども新聞記者
がきてくれるよ

つづきジュニア
記者からもうとう
新聞記者が!



会場：みなとみらい Innovation & Future Center (富士通エフサス)
クイーンズスクエア B棟 9F

イラスト↓ 山岸シュンスケ



参加無料
どなたでも
参加できます

川崎でも
こども記者の
活動ははじまって
いるんだって。



みなとみらい
ジュニア編集局も
応援お願いします



NPO 法人ミニシティ・プラスでは「つづきジュニア編集局」が10周年という節目を迎え、「こどもとメディア」の活動の価値や意義について、多くの方たちに知ってもらい、それを各地に波及していくことができないかと考え、本シンポジウムを開催します。こどもたちが、まちを調べ、まちで学び、まちの情報を発信することで、まちが好きになり、まちを大切に人が育ち、持続可能なまちが出来ます。

今回は、石巻日日こども新聞、川崎のじもたんキッズのこども記者を招き、こども記者たち自身から、日々の活動について報告してもらいます。また、2018年よりスタートした、みなとみらいを地元とする、MMジュニア編集局(NPO法人ミニシティ・プラス主催)のジュニア記者も参加します。また、高校生のときに千葉の地でFMパーソナリティをつとめていたまりかさんも参加してくれます。本シンポジウムでは、「こどもとメディア」の活動から、新聞記者の道に進んだOBたち、現役こども記者たちが主人公です!ぜひこどもたちのトークセッションにご参加ください。

主な内容

- ★こどもとメディアについて 中村雅子教授&中村研究室学生
- ★つづきジュニア編集局の取り組み(NPO法人ミニシティ・プラス、ジュニア記者)
- ★MMジュニア編集局の紹介(MMジュニア記者)
- ★石巻日日こども新聞(石巻)、じもたんキッズ(川崎)からの報告
- ★スペシャルゲスト
千葉拓人氏:石巻日日新聞記者(石巻日日こども新聞記者OB)
と子ども記者のクロストークやパネル展示、OBセッション等。

主催：NPO法人ミニシティ・プラス
共催：東京都市大学メディア情報学部中村雅子研究室
協力：株式会社富士通エフサス みなとみらい本町小学校
後援：東京都市大学メディア情報学部

このシンポジウムの一部を、FreeWill 助成金をいただいて実施しています



←横浜での写真展
トークイベント(2013)

ちば ひろと
ゲスト 千葉 拓人氏

1995年生まれ。中学3年生の時に宮城県石巻市で東日本大震災を経験。震災の記憶と教訓を伝える使命を感じ写真を撮り続ける。その数は10万枚を越えた。石巻地域の子どもたちによる情報発信活動「石巻日日こども新聞」創刊(2012年3月)から記者として活動。第4回国際防災グローバルプラットフォーム(2013年5月、スイス・ジュネーブにて開催)には宮城県の高校生を代表して参加した。現在石巻日日新聞記者、広告デザイナーとして活躍中。

